

# 地区の移り変り



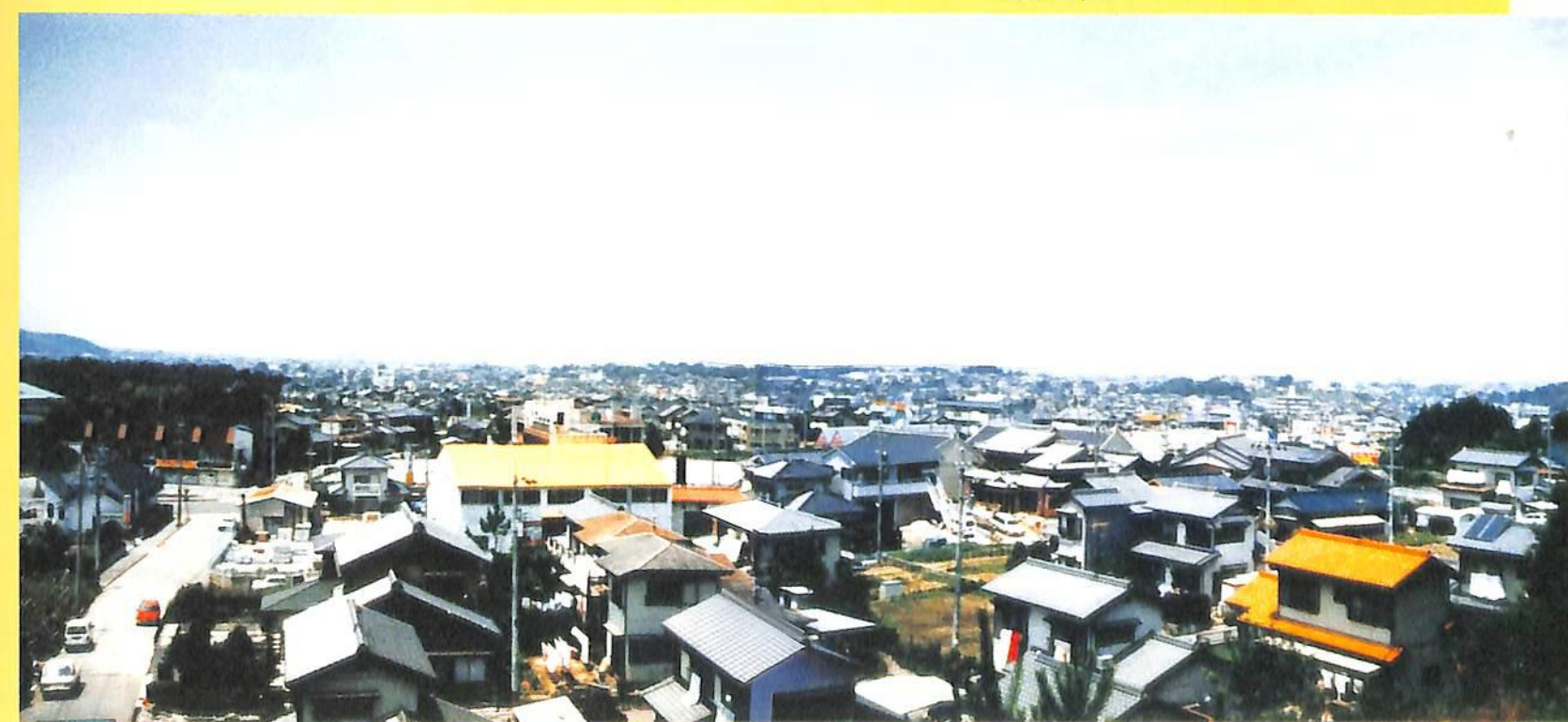
▲整理前

▼整理後



▲整理前

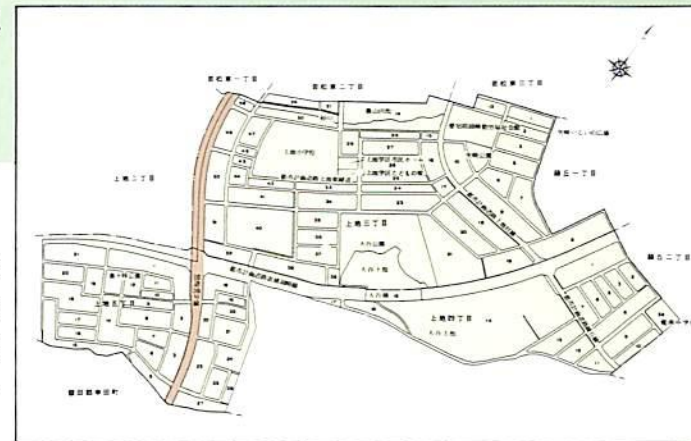
▼整理後



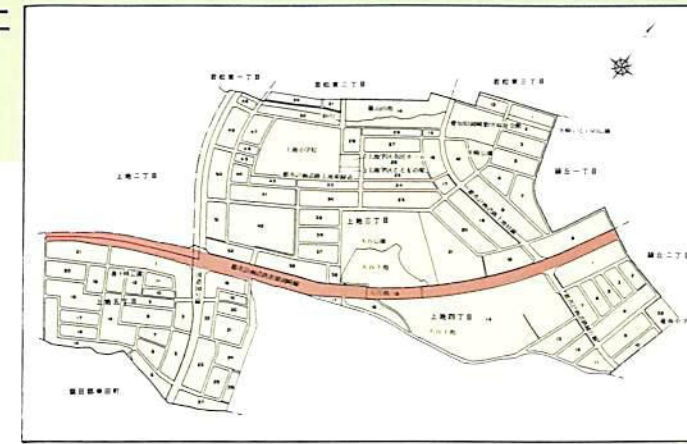




上地第一、第二両組合の境界を通過する国道248号線。岡崎市を南北に縦断するこの都市計画道路の築造計画が、同時に上地の区画整理事業のきっかけとなった。いまは上地の生活道路にもなっており、中央分離帯にはカン椿が、歩道と車道の境界にはつつじ、そして数メートル置きにプラタナス、ケヤキと、街路樹が整備されている。



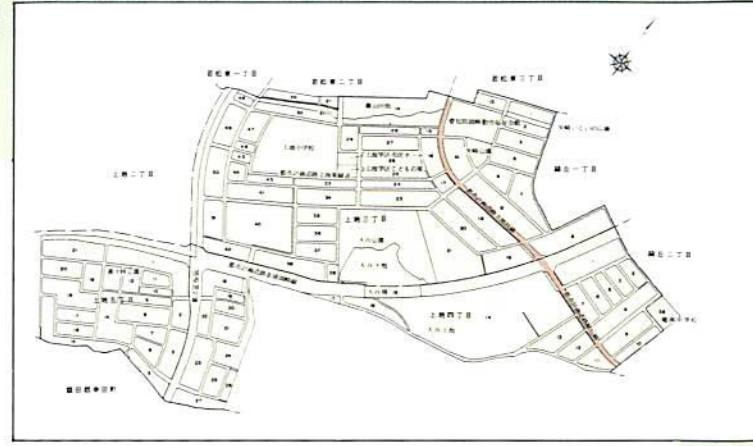




東名高速自動車道路岡崎インターチェンジと衣浦港を結ぶ産業道路として築造工事の進む衣浦岡崎線。未だ上地の区画整理地内での整備が終わったばかりだが、その早期完成が待たれる。







第二組合北部を東西に走る幹線道路。愛知県岡崎勤労福祉会館を挟んで昔の面影を残す奥山田池の周辺には、なら、ぶな、くぬぎ、くろ松などの樹木がうっそうと茂る雑木林が残り、水面は野鳥の天国でもある。



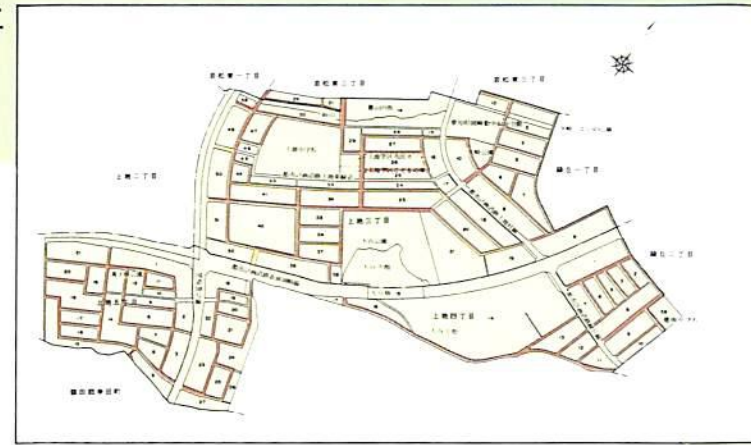


# 区画道路

区画整理地内で縦横に築造された区画道路。幅員4メートルから12メートルまで6段階からなるアスファルト舗装道路の総延長は11,553メートル、区画整理施行面積の約11%の面積に達する。



岡崎上地第二

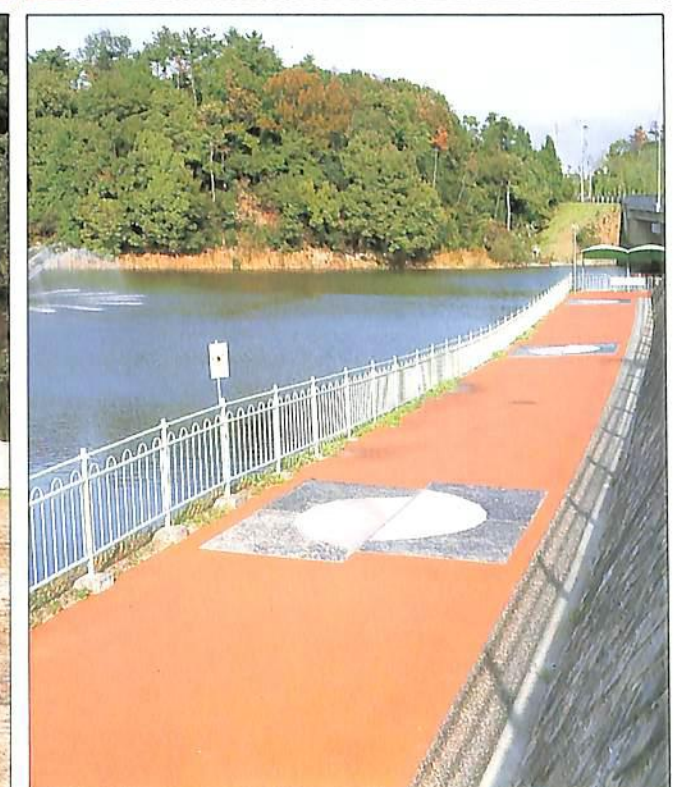
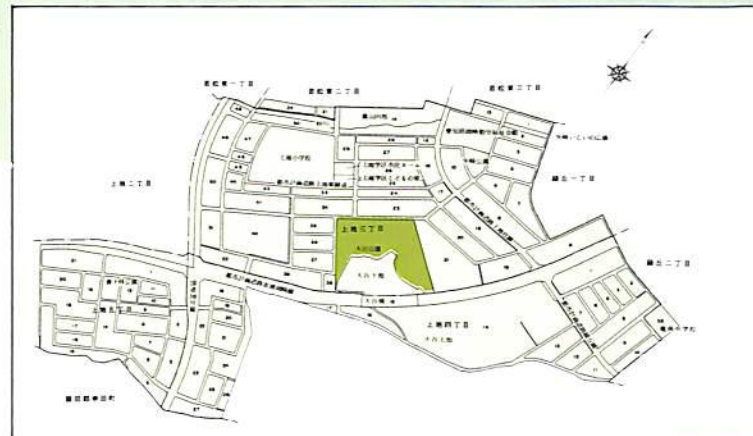




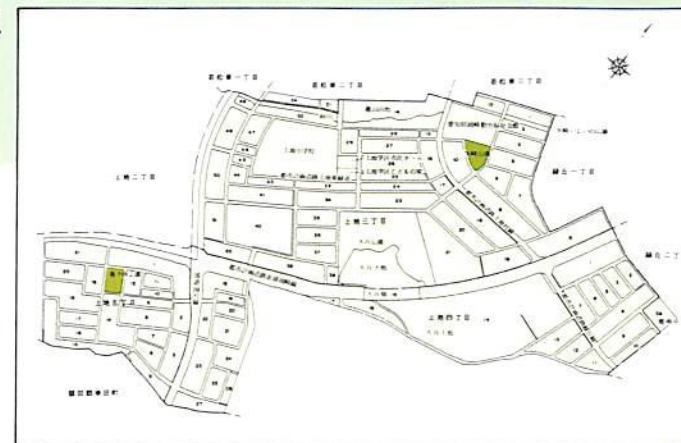
# 大谷公園

岡崎上地第二

区画整理前の面影を残す雑木林と大谷池一帯は、都市計画公園大谷公園として岡崎市の手で整備が進んでいる。2万4,572平方メートルの規模を持つ公園は、遊園地とキャンプ場が整備され、大谷上池には鴨など渡り鳥も飛来し、自然観察にも格好の場所で、地元はもとより岡崎市民の憩いの場となっている。緑に包まれた丘陵を背景に大谷下池「平成の泉」の中央から吹き上げる噴水は、完成記念碑文と併せて岡崎上地第二特定土地区画整理組合のシンボルでもある。







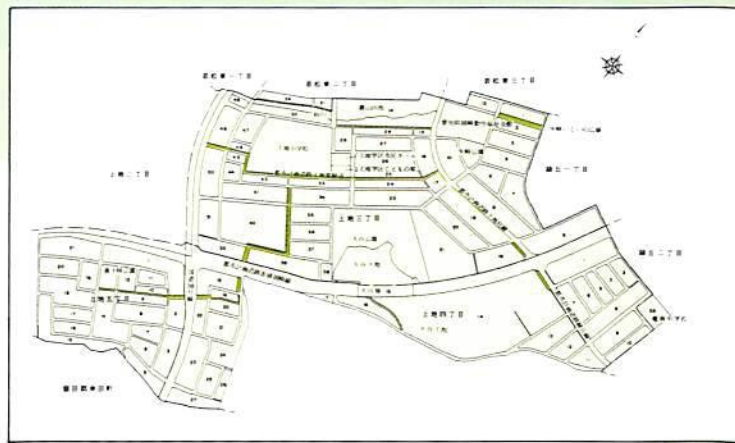
昔の地名をつけた善十林公園は、東に国道248号線、北に都市計画道路衣浦岡崎線の近接した上地五丁目にある児童公園。広さ2,274平方メートルで昭和55年度から56年度にかけて岡崎市の手で遊具や植樹などが行われた。



上地三丁目、愛知県岡崎勤労福祉会館に隣接する矢崎公園。広さ2,702平方メートルで、昭和56年度から57年度にかけて岡崎市が、遊具や植樹など公園整備を行った。これらの公園は、地域住民の緊急時の避難場所であり、憩いの場であり、子供達の格好の遊び場である。





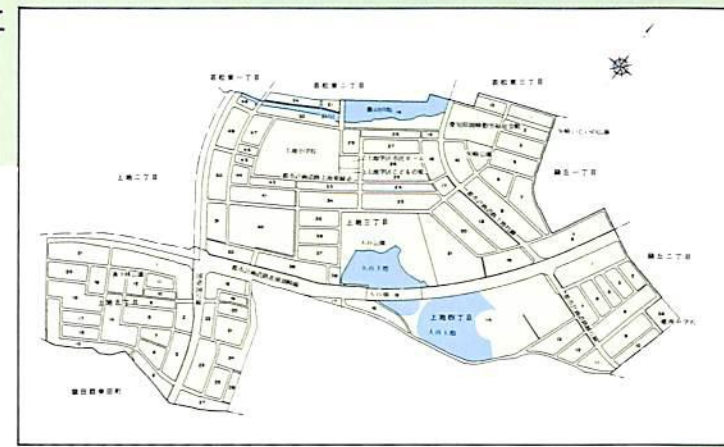


東は愛知県岡崎勤労会館から、市立上地小学校横を通り、西は前田公園まで結ぶ、延長990メートルの緑と花のある散策路であり、憩いの場でもある上地東緑道。歩行者専用道路で、通学児童等の交通禍を避けるため、地下道を使って国道248号線を横断している。アメリカフウ、アペリア、キリシマツツジ、クチナシなど多くの樹木が植えられており、緑のトンネルになる日も遠くない。

かつて奥山田池のあったところを埋め立て、2.5メートル角のボックスカルバートの埋設された水路敷の上をローラースケートのできる広場に整備したのが「緑道・矢崎いこいの広場」。馬頭緑道の終点に位置し、周囲には愛知県岡崎勤労福祉会館、テニスコートなどがあり、市民のくつろぎの場、子供達の遊び場として親しまれている。緑丘方面から奥山田池に至る排水は地下に埋設された2.5メートル角のボックスを経て、砂川に流れていく。この広場は幅11メートル、延長105メートルあり、石畳と花壇の一角には、広場のアクセサリともなる出力20ワットのソーラーライトが設置されており、夜間緊急時の目印にもなっている。

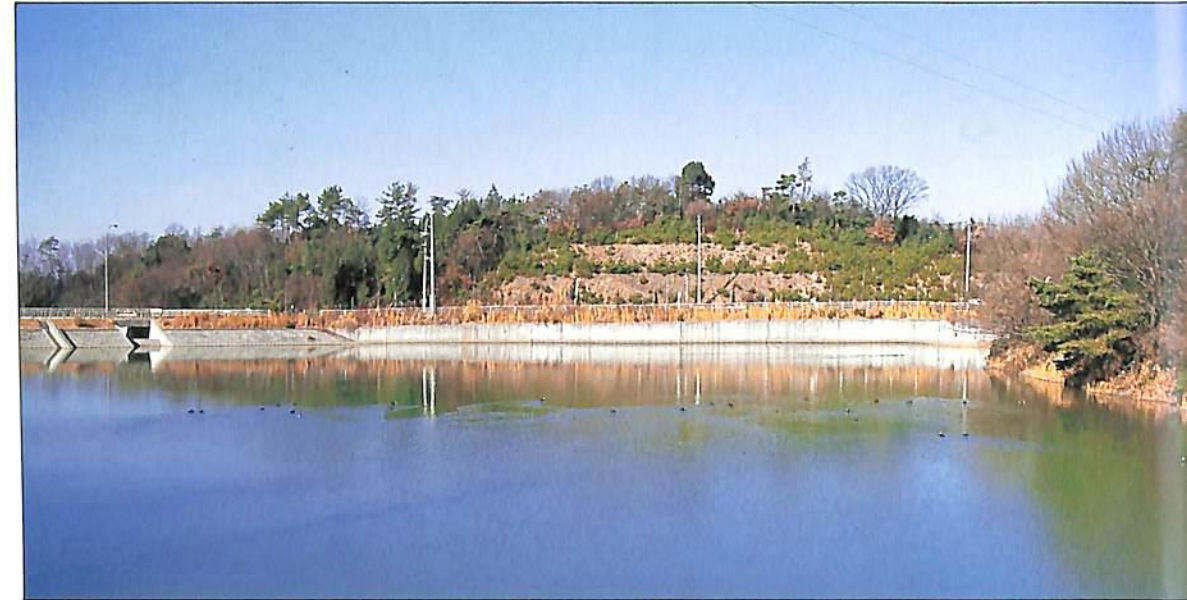
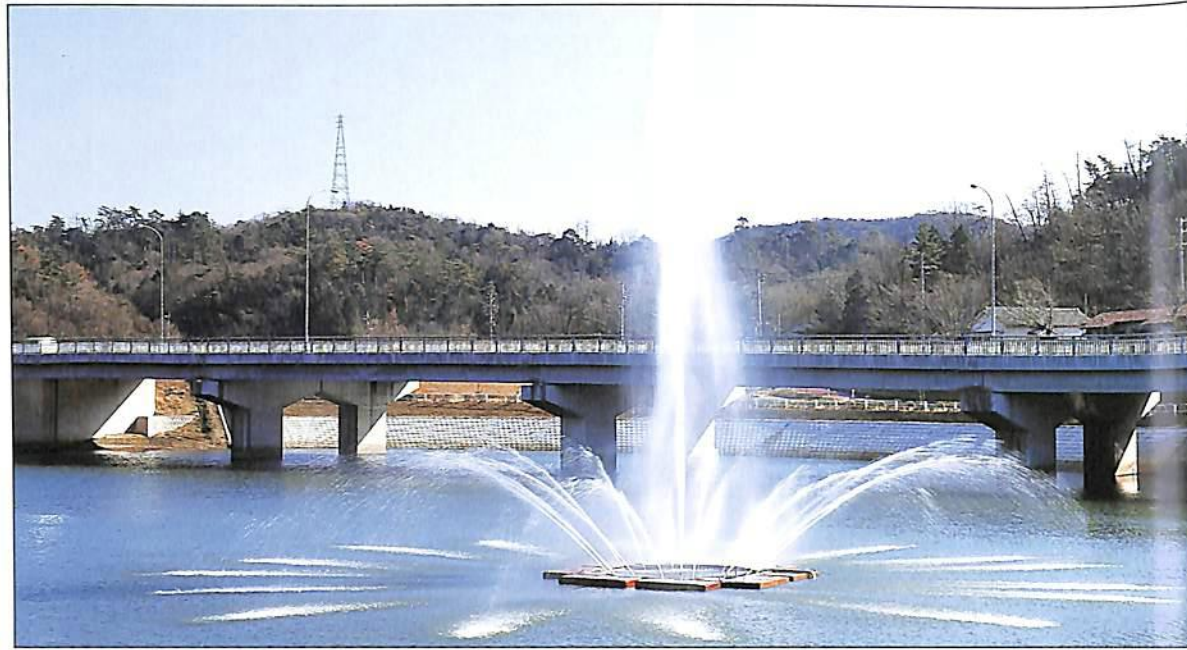






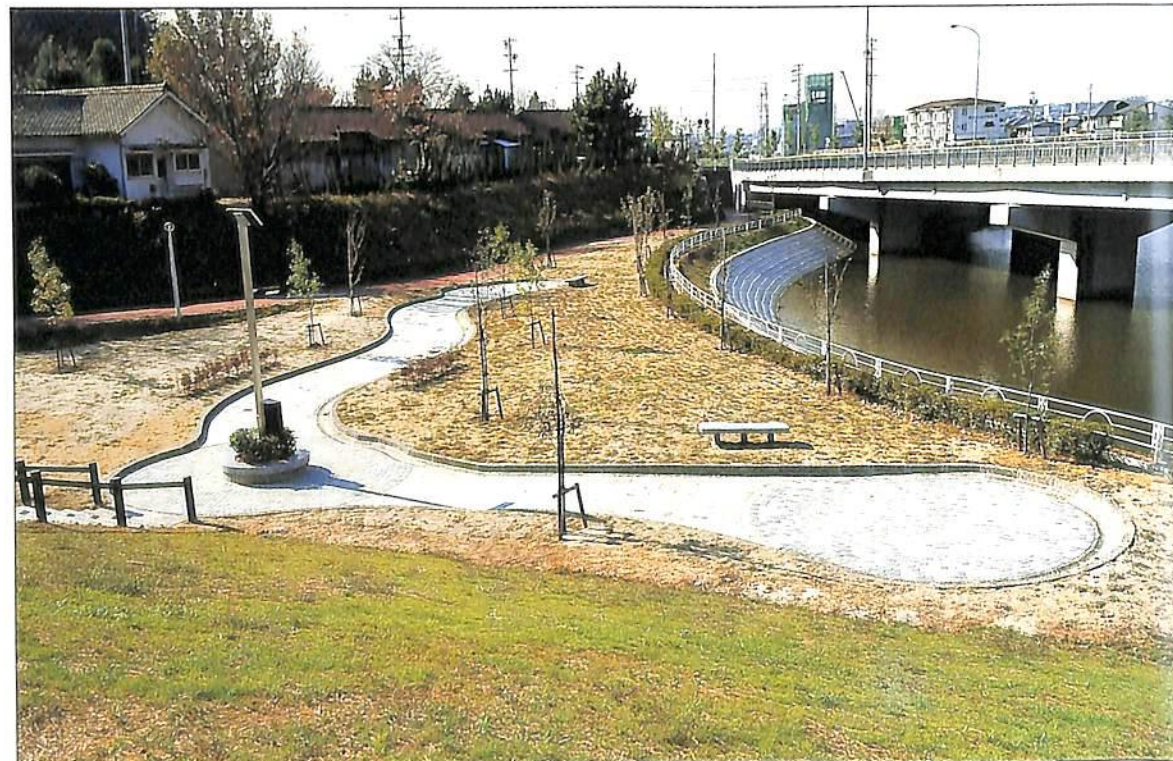
## 大谷下池と大谷橋

近い将来、東名高速自動車道の岡崎インターチェンジと衣浦臨海工業地帯を結ぶ都市計画道路衣浦岡崎線。上地地区内の工事は終り、その線上に自然の景観保護に配慮して架設された大谷橋。区画整理前の面影を僅かに残す大谷上池と大谷下池を分けるように築造された延長120メートルのこの橋は、上地第二組合の総事業費の8分の1を費した大工事だった。



## 大谷上池・下池

大谷下池との落差5メートル余。冬にはかる鴨が飛来し、体を休め、そして遊ぶ。大谷下池の周辺は公園として整備が進む。山中には平安時代の登り窯跡があり、総延長1キロの遊歩道、キャンプ場、遊園地の整備も進んでいる。



## 砂川

上地第二組合地内を流れる唯一の川で、水源は奥山田池。広田川、矢作古川に合流して三河湾に流入している。

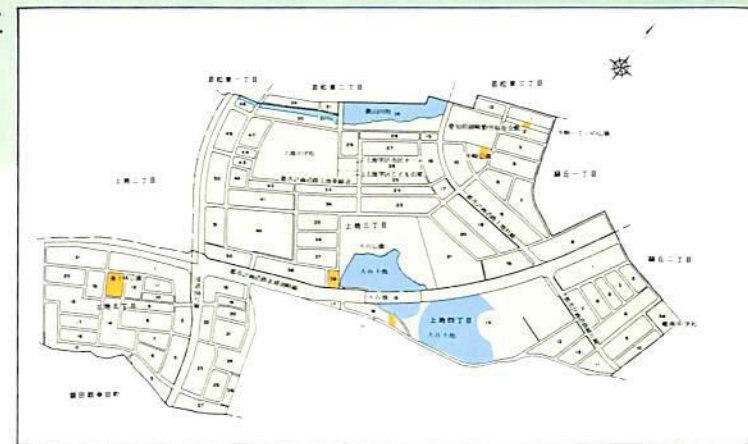
## 奥山田池

数次にわたり池の浚渫を行い、水深を下げ、災害時の洪水調節機能を高めると共に、自然林を背景に、昼は釣り人が糸を垂れ、夜は勤労福祉会館のナトリウム灯が水面に美しい影を写しだし、心をなごませる。





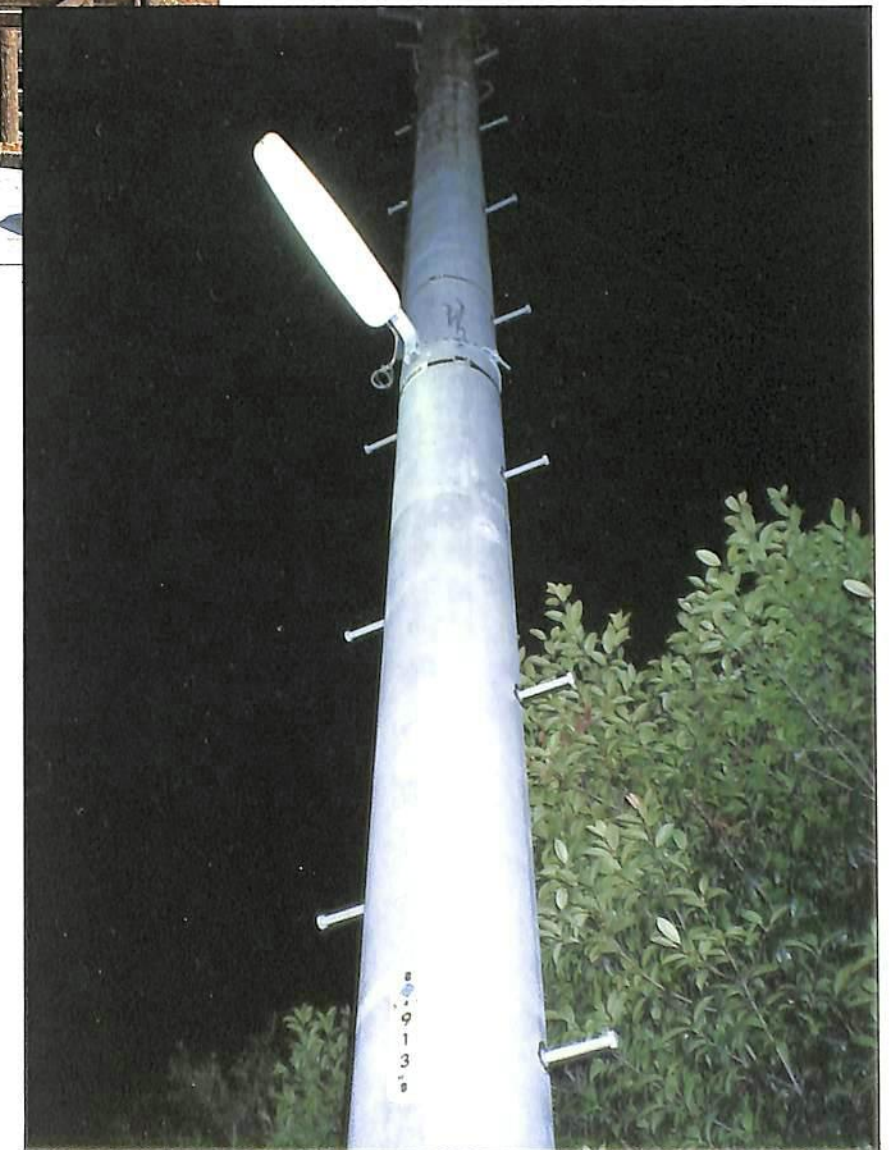
風水害や火災などの事態に即応するため、上地三丁目の矢崎公園と大谷公園および上地五丁目の善十林公園の一角には、それぞれ防災機器を収納した2個のコンテナハウス倉庫と、関東大震災以上の耐震性を有する耐震防火貯水槽（容量40トン）を埋設している。



矢崎いこいの広場、大谷上池、完成記念公園の一角には、出力20ワットのソーラーライト（太陽電池を使った照明灯）を設置、緊急時の避難誘導にも一役買うことになっている。



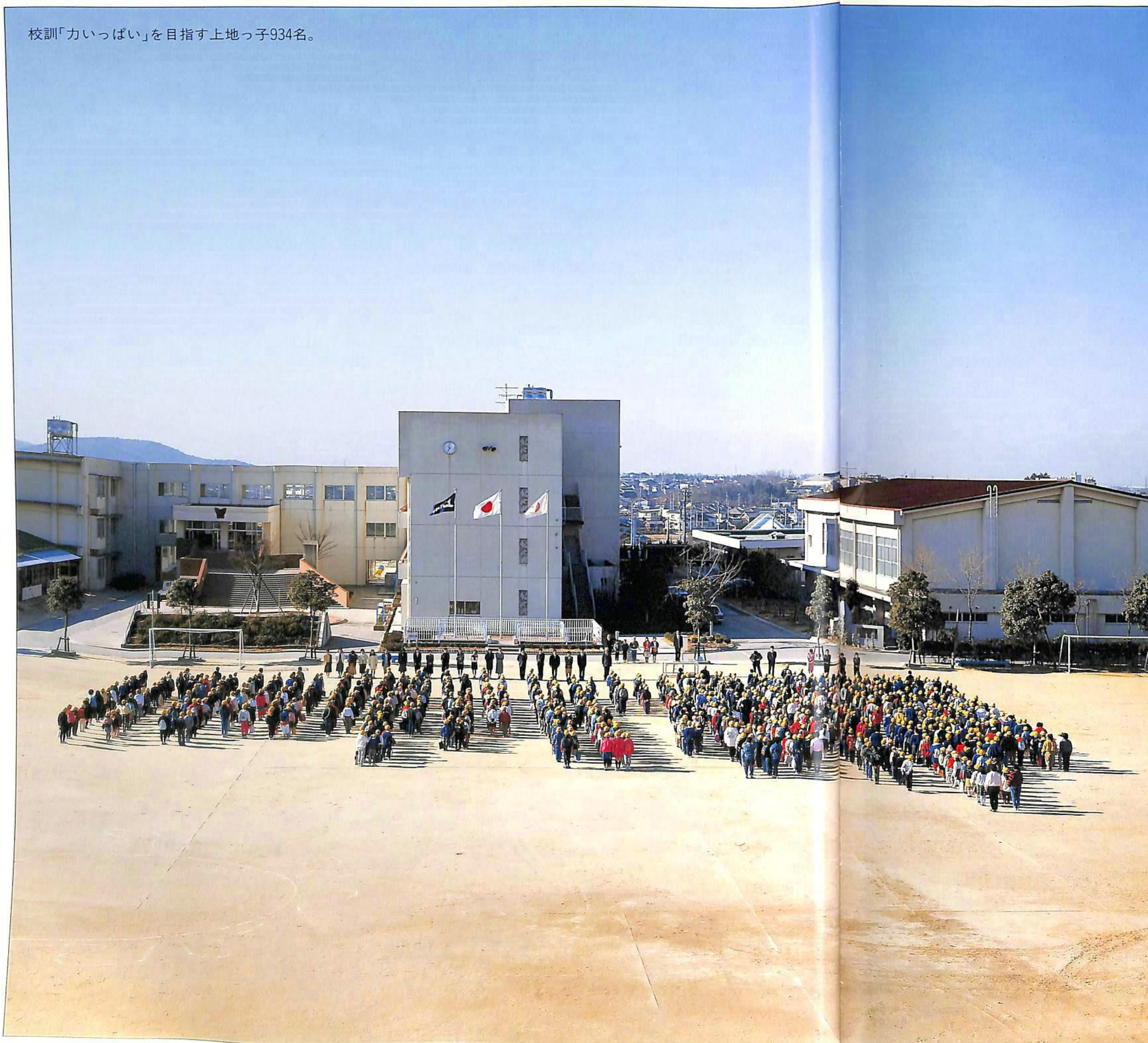
夜間における防犯、交通安全の向上のため、96ヶ所に街路灯を設置した



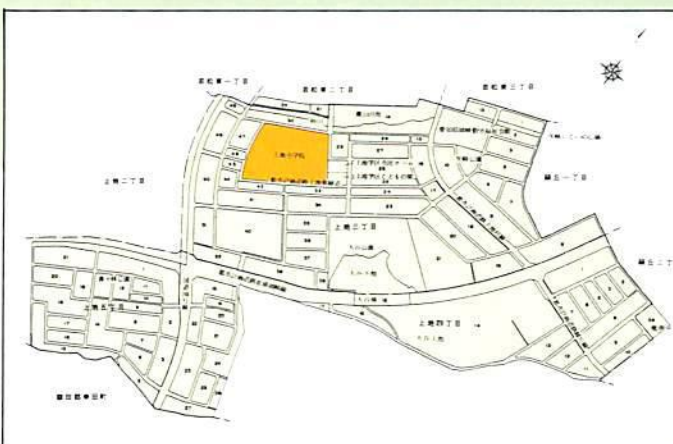


# 教育文化施設/岡崎市立上地小学校

校訓「カいっぱい」を目指す上地っ子934名。



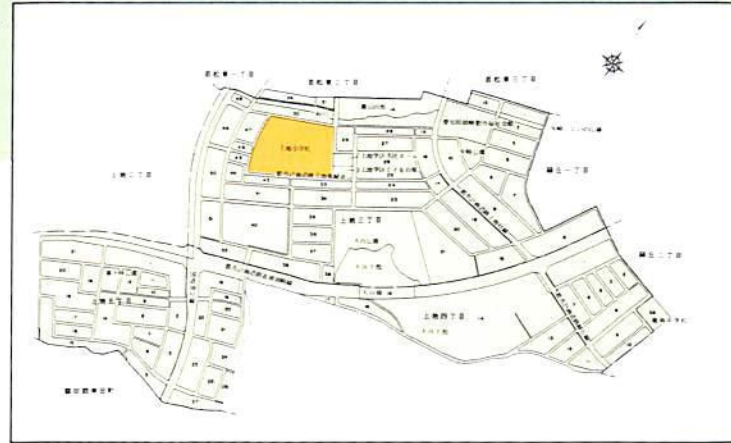
岡崎上地第二



上地学区の児童が通学する岡崎市立上地小学校は、区画整理事業で奥山田池南部の丘陵地を切り開いた2万4,901平方メートルの敷地に建設され、昭和58年4月、職員数23名、児童数582名の規模で開校した。新興住宅地として、年々着実に居住者が増えるなかで、平成2年1月現在の児童数は、934名と倍増する勢い。校舎は、鉄筋コンクリート3、4階建て校舎5,482平方メートル、平屋建て技術棟359平方メートル、体育館839平方メートルからなり、このほか25メートル、7コースのプールをもっている。







平成元年5月時点の調査によると、保護者の出身地は、沖縄、山梨、千葉の3県を除く都道府県にまたがっており、文字どおりの全国区。恵まれた自然の残る環境に、児童たちは礼儀正しく、伸びやかに育っている。スポーツも盛んで、とくにバレーボール部の女子は、開校2年目の昭和59年に西三河大会で優勝、そして62年には東海大会で優勝、続いて63年、平成元年と連続で全国大会に出場、ベスト16入りをはたした。

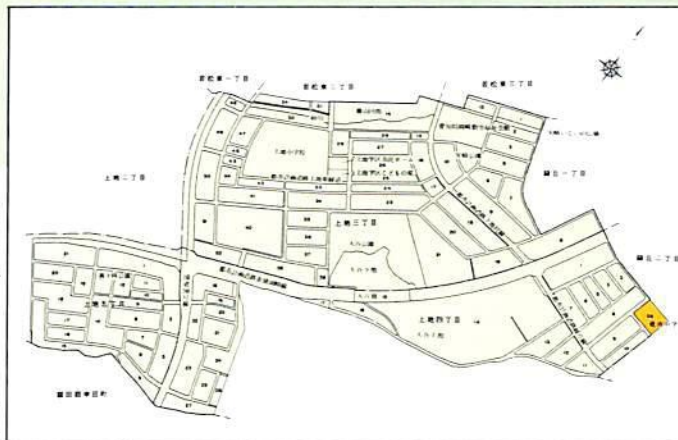




# 岡崎市立竜南中学校



## 岡崎上地第二



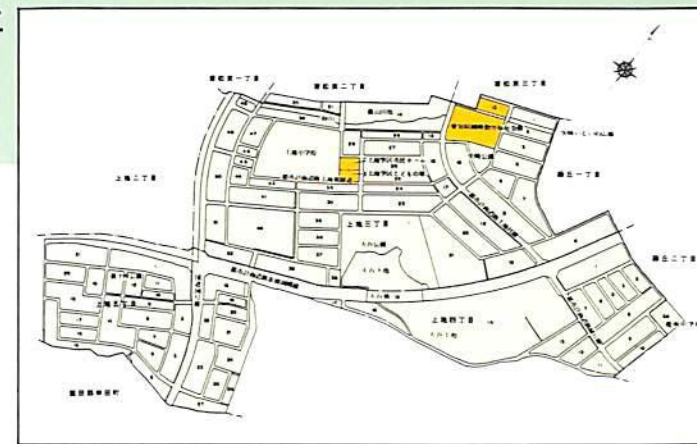
上地四丁目に隣接する緑丘二丁目にあり、昭和61年4月に開校した岡崎市立竜南中学校。敷地2万9,001平方メートル(内3,304.3平方メートルを上地第二組合が保留地として提供テニスコートとして使用されている)校内には鉄筋コンクリート4階建て延4,930平方メートルの校舎、696平方メートルの技術棟、2,250平方メートルの体育館、1,347平方メートルのプールなどがあり平成2年1月現在、878人の中学生が学んでいる。40人学級編成への移行に伴い、引き続き校舎の増築が計画されている。





# 市民ホーム・こどもの家・愛知県岡崎勤労福祉会館

岡崎上地第二



上地三丁目にある岡崎市上地区市民ホームは、総工費6,976万円を投じて建設され、昭和60年4月に開館した。鉄筋コンクリート2階建て延べ床面積314.6平方メートルのモダンな建物は1階に12.5畳と10畳の和室、約1,000冊の図書のある図書室、2階に集会なども出来る98.6平方メートルの会議室などを配しており、学区住民のコミュニケーションの場となっている。学区住民の手によって各種のサークル(習字、料理、民謡等)が定期的に運営、開催されている。



上地区市民ホームに隣接する岡崎市上地区こどもの家は、総工費6,085万円を投じて建設され、昭和62年4月に開館した。鉄骨平屋建て延べ499.6平方メートルの内部は、404.2平方メートルのレクリエーション室、22.7平方メートルの造形室、15.4平方メートルの図書・事務室などからなっている。午前中は学区の夫人を中心とするジャズダンス、バレエ教室やインテリアカなどの室内体育の場として、午後は室内運動や積み木、将棋、チェスあるいは粘土細工などに興ずる小学生達の遊びの場として、そして夜間は教育指導者に引率された中学生たちのバレーボールやメクリートホールの特訓の場として利用される。市民ホーム同様学区住民の利用を原則とし、使用料は無料。



緑に包まれた奥山田池に隣接する上地三丁目にあい知県の手に建設され、昭和58年1月に開館した愛知県岡崎勤労福祉会館は、岡崎、額田地域の勤労者を中心とした、県民の文化、教養および体育向上と余暇活動の場として広く利用されている。敷地15,140.3平方メートル、鉄筋コンクリート3階建て延べ2,851平方メートルの宿泊管理棟、鉄筋コンクリート一部鉄骨鉄筋コンクリート3階建て延べ2,196平方メートルのホール棟、鉄筋コンクリート一部鉄骨鉄筋コンクリート平屋建て延べ956平方メートルの体育館棟、夜間照明設備付きの全天候型テニスコート2面、153台の収容能力を持つ駐車場、45台を収容する自転車置場が、周辺の景観に配慮してモダンなたた住まいを見せる。主な施設は800人を収容する大ホール、200人を収容する小ホール、一部結婚式場にも使用できる研修・会議室5室、36畳と10畳の和室があり、和洋14室には合わせて54人が宿泊できる。